警戒レベルと避難行動〔自分の命は自分で守る〕

町から高齢者等避難（警戒レベル３）や避難指示（警戒レベル４）等が発令された際には、危険な場所から速やかに避難してください。また、気象庁より警戒レベル３、警戒レベル４に相当する防災気象情報が発表された際には、避難指示等が発令されていなくても危険度分布等を用いて自ら避難の判断をしてください。

キキクル（危険度分布）
キキクル

警戒レベルと防災気象情報

「段階的に発表される防災気象情報と対応する行動」（気象庁）より作成

気象状況	警戒レベル	住民が取るべき行動	町の対応
数十年に一度の大雨	5	命の危険　直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※ 必ず発令される情報ではない
		《 警戒レベル４までに必ず避難！ 》	
大雨の数時間～２時間程度前	4	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示
	3	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難
大雨の半日～数時間前	2	自らの避難行動を確認 防災マップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	
大雨の数日～約１日前	1	災害への心構えを高める	

気象庁などの情報		
大雨特別警報	キキクル 災害切迫	氾濫発生情報
土砂災害警戒情報	危険	氾濫危険情報
※1 大雨警報 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報	注意	氾濫注意情報
大雨注意報 洪水注意報		
早期注意情報（警報級の可能性）		

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

町から発令される避難情報

避難とは「難」を「避」けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

高齢者等避難（警戒レベル３）

高齢者や障がい者等の避難に時間のかかる方や避難行動要支援者は危険な場所から避難を開始する。

その他の人は避難の準備を整えるとともに、以後の防災気象情報、水位情報等に注意を払い、自発的に危険な場所から避難を開始することが望ましい。

避難指示（警戒レベル４）

河川のそばなど危険な場所からできるだけ離れ、安全な親戚や知人宅、開設された指定避難所などの安全な場所へ速やかに避難する必要がある。

緊急安全確保（警戒レベル５）

既に災害が発生している状況であり、高台へ逃げたり、垂直（階上）避難をするなど、命を守る行動をとる。

なお、緊急安全確保は、災害が発生していることを、町が把握した場合に可能な範囲で発令するものであり、必ず発令されるものではないことに留意する。

平時（日ごろの備え）

▶ 避難経路の確認

防災マップでお住まいの地域などの災害リスクを確認しましょう。

▶ 家の周りを点検・整備

雨水の排水溝などは水がたまらないように清掃をこまめにしましょう。

▶ 防災訓練に参加しましょう

もし今、災害が発生したら…。

いざという時、より冷静に行動できるように、防災訓練などに積極的に参加しましょう。

▶ 非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備品には限りがありますので、自らが十分な準備をすると安心です。両手の空くリュックサックに非常持ち出し品を準備しておきましょう。重さの目安は、男性 15kg、女性 10kg です。

■ 非常持ち出し品リスト

食料品など
- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食

衣類など
- ☐ 下着・上着
- ☐ タオル
- ☐ 歯みがきセット
- ☐ マスク

貴重品
- ☐ 貯金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 現金
- ☐ 身分証明書（保険証など）
- ☐ 保険証券

日用品・安全対策・その他
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 予備電池
- ☐ 携帯電話
- ☐ ティッシュ
- ☐ 充電器
- ☐ 常備薬
- ☐ 食品用ラップ

▶ 家庭での備蓄品

各家庭で最低3日間、できれば1週間過ごせるよう、飲料水（1人1日3リットル）、食料等を備蓄しておきましょう。保存期間の長い普段の食料を多めに買っておき、期限の近いものから消費、使った分を買い足す「ローリング・ストック方式」も効果的です。

家庭備蓄の例（１週間分 / 大人２人の場合）

必需品
- 水 2L×6本×4箱
  ※1人1日およそ3L程度（飲料水+調理用水）

- カセットコンロ・カセットボンベ×12本
  ※1人1週間およそ6本程度

主食 エネルギー 炭水化物
- 米 2kg×2袋
  ※1袋消費したら1袋買い足す（1人1食75g程度）
- 乾麺（うどん・そば・そうめん・パスタ）
  ・そうめん2袋（300g/袋）
  ・パスタ2袋（600g/袋）
- カップ麺類×6袋
- パックご飯×6袋
- その他（適宜）
  ・ロングライフ牛乳
  ・シリアルなど

主菜 たんぱく質
- レトルト食品
  ・牛丼の素、カレー等18個
  パスタソース6個

- 缶詰（肉・魚）
  ・お好みのもの18個

副菜・その他
- 日持ちする野菜類
  ・たまねぎ、じゃがいも等
- 調味料
  ・お好みのもの
- 梅干、のり、乾燥わかめ等
- 野菜ジュース、果物缶詰等
- 即席スープ等

警戒レベル1・警戒レベル2　防災気象情報に注意

台風や集中豪雨の場合は、地震などとは違い毎年同じ時期に同じような現象を繰り返します。TV、データ放送、ラジオ、インターネットなどで最新の気象情報をこまめにチェックし、避難の必要がある場合は速やかに避難しましょう。

災害情報

愛媛県「愛媛県防災メール」

災害情報や、避難情報などの防災情報や緊急のお知らせを電子メールで配信。

＼検索してみよう！／

愛媛県防災メール

キキクル

気象庁「キキクル（危険度分布）」

危険度の分布情報が入手できます。

＼検索してみよう！／

キキクル

河川映像・水位情報

川の防災マルチモニタ

重信川のライブ映像、水位情報が入手できます。

＼検索してみよう！／

川の防災情報

防災行政無線 テレフォンサービス

防災行政無線の放送内容が聞き取りにくい場合は、テレフォンサービスをご利用ください。

(089) 907-0202

砥部町 メールマガジン

砥部町では、防災行政無線で放送する情報、気象情報、避難情報などをお知らせする、メールマガジンの配信サービスを行っています。

配信希望の方は、砥部町ホームページにアクセスして登録してください。

https://www.town.tobe.ehime.jp/mailmaga/

大きな地震が発生すると、電話回線が混み合いつながりにくくなります。
災害時の際は各電話会社が設置する「災害用伝言ダイヤルサービス」や「災害用伝言板サービス」を利用できます。

忘れて171イナイと覚えましょう！

災害用伝言ダイヤルサービス 171

伝言を録音するとき	伝言を再生するとき
災害用伝言ダイヤル 171	
ガイダンスが流れます	
録音は 1	再生は 2
被災者-ご自宅-電話番号 被災者はご自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。	
伝言を録音する（30秒以内）	伝言を再生する

警戒レベル3　「高齢者等避難」が発令された地域で、危険な場所にいる高齢者等、避難に時間のかかる方と、その支援者は避難を開始

▶ 高齢者等の避難に協力

お年寄りや小さなお子さん、身体の不自由な方が、早めに避難できるよう、近所のみなさんは避難に協力しましょう。

特に、一人暮らしのお年寄りや病気の人たちには、ふだんから気配りが必要です。

▶ その他の人は避難の準備！

警戒レベル4　「避難指示」が発令された危険な場所にいる人などは全員避難

避難所に移動することによりかえって命に危険を及ぼしかねない場合は、近隣のより安全な場所に避難してください。また、外出すら危険な場合には屋内で安全を確保してください。

▶ 複数で避難・隣近所に声をかけましょう！

一人で避難すると、事故にあったとき非常に危険です。複数で避難し、隣近所に声をかけていきましょう。

▶ 車での避難は控えましょう！

自動車での避難は緊急車両の妨げとなりますので、特別の場合を除きやめましょう。

履物に注意しましょう！

運動靴が最適です。長靴は浸水が深いと中に水がたまるので動きにくくなります。

危険な場所は避けて避難しましょう！

ガード下や、がけ地、堤防などを通るのは危険です。近道であっても避けましょう。橋を渡ることは避けて避難しましょう。

歩ける深さに注意しましょう！

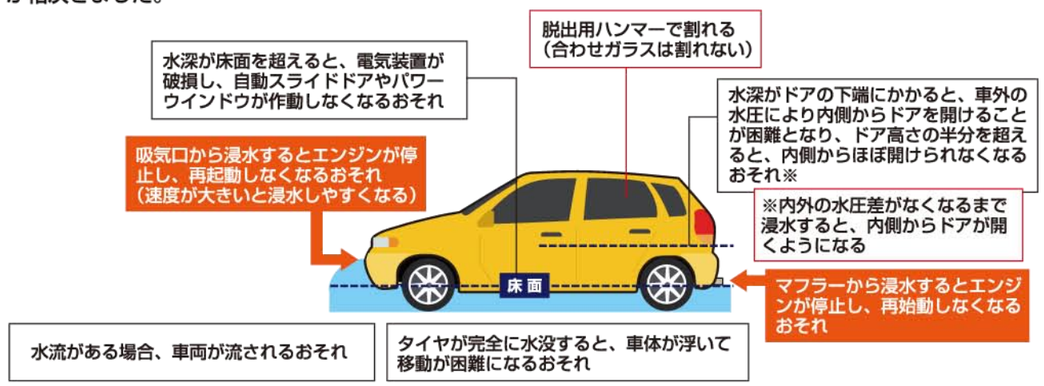
浸水時に歩ける深さは、ひざの高さ程度までです。水かさが腰まであると疲労しやすく、流速がある場合は20cm位の水かさでも危険です。
高い場所で救援を待ちましょう。

警戒レベル5　命の危険 直ちに安全確保！　※災害が発生した場合に必ず発令されるものではありません

既に災害が発生している状況であり、命を守る最善の行動をとりましょう。

topic▶ 走行中に自動車が水没したらどうなる？

令和元年の台風19号等による大雨においては、自動車が水没する等により、運転者や同乗者が亡くなる事故が相次ぎました。



風水害について知る

水害とは、大雨や台風などの多量の降雨によって引き起こされる災害です。梅雨期の大雨や台風などにより、平年の一ヶ月の雨量を超えるような雨が短時間で降ることがあります。台風により激しい雨が降ると河川の急激な増水により社会生活に大きな影響を及ぼす河川の氾濫や山崩れなどの災害が発生します。

雨の強さと降り方（1時間雨量）

※ゲリラ豪雨等により20㎜～30㎜の雨でも市街地では冠水する場合があります。

10～20㎜ やや強い雨

地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

20～30㎜ 強い雨

土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川の氾濫や、崖崩れの心配もあります。

30～50㎜ 激しい雨

バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、崖崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

50～80㎜ 非常に激しい雨

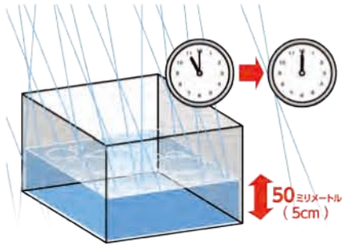
滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80㎜以上 猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

1時間に50mmの雨とは

テレビの気象情報などを見ていると「1時間に○○ミリの大雨が･･･」と説明しているのを良く聞きますが、実際にイメージしにくいと思います。では1時間50ミリの雨とはどの程度の雨なのでしょうか。



「1時間に50ミリの雨」というのは雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50mmの高さまでたまる」規模の雨です。

傘を開いたときの面積が概ね1平方メートルで、1時間傘を差していると、傘には牛乳パック50本分もの雨があたることになります。

まわりの雨水があつまると･･･

内水氾濫と外水氾濫

大雨が降ると川の水位が上がり、排水されにくくなり、下水道などがあふれてしまいます。

崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲い掛かります。

土砂災害について知る

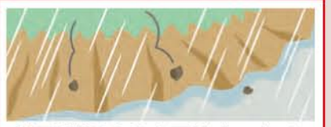
土砂災害の種類

土砂災害には、「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」の3種類があります。甚大な被害を引き起こす土砂災害に対処するには、それぞれの特性と発生の兆候を知ることが重要です。

がけ崩れ（急傾斜地崩壊）

大雨などをきっかけに、地面にしみ込んだ雨水により急な斜面の土砂が崩れ落ちることを「がけ崩れ」といいます。斜面の崩壊は突然起こりスピードも速いため、人家の近くでがけ崩れが起きると、逃げ遅れる人も多く、人的被害の出やすい災害です。

前兆現象



斜面（がけ）から小石がバラバラと落ちてくる

斜面（がけ）から急に水がわき出したり、わき水が濁る

土石流

大雨などをきっかけに、谷底にたまった土砂や山腹から崩れ出した土砂が水と混じり合って一体となり、谷を一気に流れ下ることを「土石流」といいます。一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅する恐ろしさから、山津波とも呼ばれている災害です。

前兆現象

川が濁り、流木が一気に流れる

山鳴りがする

地すべり

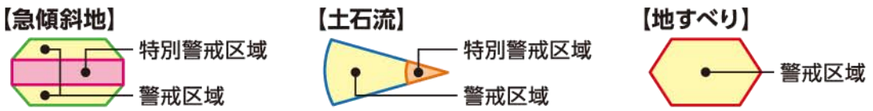
雨や地下水などをきっかけに、山すそや丘陵地などの斜面などで、地中のすべりやすい地層を境に地面がそっくり動き出すことを「地すべり」といいます。その発生規模は広範囲にわたり、人家や田畑が崩壊してしまうこともあります。

前兆現象

地面にひび割れができる

斜面の所々から急に水がわき出す

土砂災害（特別）警戒区域

土砂災害（特別）警戒区域の指定は、土砂災害防止法に基づき、土砂災害から人命や財産を守るため、危険性のある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備や危険箇所への新規住宅の立地抑制等のソフト対策を充実させていくことを目的としています。

- **土砂災害警戒区域** …土砂災害が想定される区域
- **土砂災害特別警戒区域** …土砂災害警戒区域のうち、建築物に損害が生じ、住民に著しい被害が発生する恐れがあり、特定の開発行為の制限や建築物の構造規制を行う区域